

【物語の「自力読み」南山プランのポイント】

「物語って面白い。」「本が好き。」と言える子どもの育成をめざすために、  
研究を通して、  
☆一人でじっくり考え表現することができる力をつける。(物事に向き合える力)  
☆物語を読んだ時、自分なりの読みをもち、共有し、認め合う力をつける。

①作品全体を読む。

範 読

→初発の感想

気持ちをおさえて。

学習課題をひろう。

大切な言葉の意味を共有する。(意味調べ)

「時・場・人物」

場面分け

物語の構成をつかむ。

前ばなし場面  
物語の展開場面  
クライマックス場面  
後ばなし場面

単元全体の中心課題を提示する。

単元のゴールを示す。

一文あらすじ・あらすじまとめ

各場面を一文で書く。

③作品全体をまとめる。

・感想文⇒交流    ・音読会    ・紹介文 など。

②作品の中心を読む。

学習活動に必然性をもたせる。

- ・「考えたい」発問
- ・学習のゴールを見据えた授業構成  
⇒どんな力を児童につけたいか。

叙述に根拠を求める。

- ・教科書(文章)にもどる習慣  
⇒自分の考えのもとはどこなのか。

物語の大きな三つの問い

- ① 「何が」 変わったのか?
- ② 「どのように」 変わったのか?
- ③ 「どうして」 変わったのか?

自分の考えを伝える力

- ・考えをノートにまとめる。
- ・話型の提示。
- ・普段からの指導と反復練習  
⇒個人が活躍できているか。

登場人物の感情の変化  
(うつりかわり)。

- ・書き込み学習    ・吹き出し法
- ・人物関連図作成    ・感情曲線  
など  
⇒有効な手法を探る。